



## つれづれ時事寸評 2

### 「保有効果」

大野 哲夫

昨年の年の瀬、ご他聞にもれずわが家も遅すぎる大掃除に精を出していた。部屋を見渡すと、改めて使わないモノが家庭の隅々まで占拠していることに気づかされる。使用しなくなった健康器具、古いパソコン、故障した電化器具、主のいなくなった子ども用ベッド、学習机にイス、マンガにビデオテープ、それに大量の本と資料の山、まったく着なくなった衣類など、いつの間にか家族生活が変化することで利用しなくなったモノや不用になったモノ、それにせっせと溜め込んだモノが家庭空間を占拠しており、ままならない事態になっていた。妻はすっきり不用なモノを捨てて、さっぱりしましょうと整理の決断を迫るものの、捨てられない私は煮えきれない。畳み掛けるように妻は言う。「これからは欲しいものがあったても、今ある何かを処分してからでないダメよ！」

確かに家のキャパシティを超えた雑多なモノに取り囲まれた生活は、雑然とした統一のない精神生活を表している。とは言うものの、モノを捨てられない心理とは一体なんだろう。「保有効果」(endowment effect)というものがある。これは自分の所有するものに高い価値を感じ、手放したくないと感じる現象のことをいう。人はすでに持っているものに過剰な価値を与えようとする存在で、一般的に車の買い替えでは新車の値引きよりも自分の乗っ

ている車の下取り価格に強い関心があると言われている。また、人は年齢とともに保守化していく傾向があるが、家や財産の獲得、社会的地位や名声の獲得は少なからずこの「保有効果」の影響があり、保守的傾向になっていくと考えられる。私がモノを捨てられない根底にはこの「保有効果」がはたらいており、私にとってはゴミどころか宝の山とは言わないまでも、失うには惜しい価値あるものに思えるのだから不思議だ。だからといって所有するものに高い価値を認めると、モノはどんどん増え続ける。

モノがあふれ出すと、ついには家の周りにまで影響し、自転車やバイク、自動車が堂々と公道を占拠している姿(あふれ出し)を見たりする。これは本来、自宅の敷地内に保管し収納すべき品々が、その空間が飽和状態になることで公道へとはみ出し、そこを占拠してしまった現象である。店先では看板や自動販売機などがはみ出していることもある。そのため、近隣とのトラブルや緊急車両が通れなくなる事態も起こっている。モノの過剰さは自分の家だけでなく、公共空間をも侵食し、近隣関係にヒビが入らぬとも限らない。それぞれ個別の理由があるのだろうが、モノを所有しそれに高い価値を置くと、「保有効果」の悪循環に陥り、家庭内だけでなく近隣との無用なトラブルの原因を作り出してしまい、豊かな地域生活を閉ざしてしまうことになりかねない。などと考えているうちに、進まぬ掃除にため息ついて終了してしまった。

(本研究所研究員 社会心理学)